

発掘のむかし・いま・ミライ

発掘調査（以下、発掘）は、何百年、何千年前の歴史にじかに触れることができる、新たな発見の作業です。それは宝探しではなく、当時の人々の営みを解明するための、考古学の最前線の活動です。何かを発見することだけでなく、何も見つからなかったことを確認することも、重要な成果の一つです。

市はこれまで、市域の至るところで発掘を実施してきました。今回の展示から、発掘の歴史や、市の発掘の歩みを紹介します。

問い合わせ先
文化財課調査保存担当
☎(501)1144
☎(573)1077
ID1016126

発掘の歴史

◆江戸時代

日本で初めての学術的な発掘は、水戸黄門で有名な徳川光圀の指示により実施されました。上侍塚・下侍塚古墳（栃木県）を発掘し、記録後は遺物を元に戻し、墳丘の保護のために松を植えました。発掘のみならず、文化財保護の先駆けともいえます。

◆明治時代

アメリカ人のエドワード・S・モース（動物学者）が、日本で初めて西洋式の手法を用いて大森貝塚（東京都）を発掘し、報告書を出版しました。近代科学を取り入れた調査は、日本の考古学の出発点になりました。

◆大正時代

日本考古学の父ともいわれる濱田耕作（京都帝国大学総長）が、考古学の目的や調査の手法、土の堆積順で年代を決める方法などを体系的にまとめました。これらは今日の発掘の基礎となっています。

◆昭和時代

第二次世界大戦後、登呂遺跡（静岡県）の発掘が行われました。考古学だけでなく、地質学、植物学、動物学、人類学など、多分野の専門家が加わって実施した日本初の総合調査で、その後の発掘に大きな影響を及ぼしました。

この頃から、全国的に考古学関係のクラブ活動が盛んになり、高校生や郷土史家などが活躍します。

◆平成時代以降

その後、高度経済成長期の開発に伴い急速に遺跡が失われる危機に直面し、大学に考古学の専門機関が整備されます。そこで学んだ専門家たちが全国の自治体に配置され、発掘の担い手になりました。

発掘の手法も進化し、放射性炭素年代測定やDNA分析、胎土（土器をつくる粘土）分析などの科学的手法が本格化します。また、測量技術の進化で、ドローン測量、赤外線撮影、3Dスキヤンの活用などにより、掘るだけでは分からない情報を引き出し、当時の様子をより深く追求できるようになりました。

考古企画展

期間 8月23日(土)～11月3日(月)・祝
※9月16日(火)、10月21日(火)は休館です。

時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

場所 奴国の丘歴史資料館特別展示室



①昭和4年の市で初めての発掘



②昭和37年の須玖岡本遺跡の発掘



③春日北小学校での地中レーダー探査

市の発掘の歩み

市の発掘の始まり

昭和4年に、森本六爾（考古学者）や京都帝国大学（現在の京都大学）が、須玖岡本遺跡を初めて発掘しました（写真①）。

大学や県主体の調査

昭和37年に、九州大学と県が須玖岡本遺跡を発掘しました（写真②）。また、昭和41年に、県や春日町（現：春日市）が伯玄社遺跡を発掘し、高校教師や学生なども多数参加しました。

市主体の発掘へ

昭和52年以降は市主体で発掘をしています。弥生時代を中心とした数多くの遺跡が発掘・研究され、市域の歴史を解明していきます。

最新科学を応用した調査の導入・本格化

記録や分析の手法も進化し、平成28年の須玖岡本遺跡岡本地区20次調査では、取り上げた甕棺の中に残った土を双眼実体顕微鏡で観察しながら発掘したところ、赤色顔料や人骨（歯）が見つかりました。

また、地中レーダーや磁気探査を活用することで、効率的に調査ができます。令和6年の須玖岡本遺跡岡本地区28次調査では、あらかじめレーダーの反応をもとに調査範囲を限定し、甕棺墓を発見できました。

郷土の歴史を継承していくため、子どもたちとともに校庭下の遺跡の地中レーダー探査を実施しました（写真③）。

調査・分析手法のさらなる進化

最近では、土の中の有機質からDNAを取り出す研究も進んでおり、いまや掘った土もうかつには捨てられません。そしていつか、発掘にロボットが活躍する日もくるかもしれません。

展示を通して、発掘の“ミライ”を想像してみましょう。

関連講演会

考古学エレジーの世界

高度経済成長期の大規模開発が進む激動の時代に多くの発掘に携わった講師が、当時の様子を伝えます。

また、市職員が市の発掘について語ります。

日時 9月6日(土)
午後1時30分～3時30分

場所 奴国の丘歴史資料館研修室
講師 島津義昭さん（肥後考古学会会長）

定員 40人（申込先着順）

申込方法 8月6日(水)以降に市ウェブサイトから申し込むか、窓口、電話、ファクス、Eメールのいずれかで氏名、年齢、電話番号を伝える

申込・問い合わせ先 同資料館

☎(501)1144

☎(573)1077

✉nakoku@city.kasuga.fukuoka.jp

ID1016267